

Event Report

国際物流と貿易の未来を考える 「学生フォーラム」



【日時】 2024年3月11日（月）（於：東京税関 本関）

【開催主体】 <主催団体>
財務省関税局、（一社）日本通関業連合会、東京通関業会、
（公財）日本関税協会、輸出入・港湾関連情報処理センター（株）
<協力団体>
（一社）日本貿易会、日本機械輸出組合

【参加校】 亜細亜大学、大阪経済大学、高崎経済大学、高千穂大学、千葉大学、
中央大学、津田塾大学、東京国際大学、富山高等専門学校、福島工業
高等専門学校、福知山公立大学、明治大学

【参加者数】 <予選会参加者数>78名・20チーム
※予選会は書面審査
<本選参加者数>67名・18チーム
－ 本選発表チーム：37名・10チーム
－ その他の参加チーム：30名・8チーム

【審査員】 <審査員長>
長谷川 聰哲（中央大学 名誉教授）

岩田 伸人（青山学院大学 名誉教授、（公財）日本関税協会 理事）
遠藤 正寛（慶應義塾大学 教授）
岡藤 正策（一社）日本通関業連合会 会長）
平松 均（輸出入・港湾関連情報処理センター(株) 代表取締役社長）
奈良井 功（財務省関税局 総務課長）

国際物流と貿易の未来を考える 「学生フォーラム」

主催

財務省関税局
日本通関業連合会
東京通関業会
日本関税協会
輸出入・港湾関連
情報処理センター

協力

日本貿易会
日本機械輸出組合

2024
3/11
08:45-
17:30

集合：東京税関
東京都江東区青海2-7-11 東京港湾合同庁舎
1階ロビー集合（下の案内図参照）

09:00 オリエンテーション、業務紹介ビデオ上映

09:20 東京税関出発
バス移動

09:55 職場見学
Aグループ
東京外郵便出張所
FedEx
Bグループ
FedEx
東京外郵便出張所

12:20 バス移動
昼食・休憩（於：東京税関）
昼食には関税局、共催団体若手職員も出席
13:00 主催者代表挨拶、審査員の紹介
各グループによる研究発表（12分間）
質疑応答（3分間）

16:10 その他の参加チームの研究内容の紹介
16:30 関税局、共催団体若手職員との交流会
（同時に審査員による会議を実施）
17:00 結果発表、表彰、講評、
記念撮影
（18:00-19:30 懇親会）

所要：徒歩3分

案内図



本選参加チーム（発表順） ※配席は裏面をご覧ください			
No	大学 学部	「チーム名」 リーダー・人数	高バス/見学 グループ
1	富山高専専門学校 国際ビジネス学科	「らいちよう」 片山・4名	①/④/B-2
2	中央大学 経済学部	「とろけるチーズ班」 佐々木・3名	⑤/-/-
3	亜細亜大学 国際関係学部	「久野ゼミ」 高山・3名	⑤/①/A-1
4	高崎経済大学 経済学部	「梅島ゼミナール」 蒲井・7名	④/②/A-2
5	東京国際大学 商学部	「Export Sphere Researchers (ESR)」 大嶋・2名	①/①/A-1
6	千葉大学 法政経済学部	「伊藤ゼミ」 河村・4名	②/①/A-1
7	富山高専専門学校 国際ビジネス学科	「Latte」 松本・3名	②/④/B-2
8	福知山公立大学 地域経営学部	「林として弓」 松林・1名	①/①/A-2
9	津田塾大学 総合政策学部	「ゆきのこ」 小倉・7名	③/③/B-1
10	福島工業高等専門学校 ビジネスコミュニケーション シヨン学科	「タカギーズ」 鈴木・3名	⑤/①/A-1

その他の参加チーム（※50音順）

11	大阪経済大学 経営学部	「HSナビゲーター」 大西・3名	⑬/①/A-1
12	高千穂大学 商学部	「観光地域班」 川瀬・4名	—
13	中央大学 経済学部	「陸摩藩」 宮城・4名	⑥/②/A-2
14	中央大学 経済学部	「対馬藩」 山之口・4名	⑦/①/A-2
15	中央大学 経済学部	「松前藩」 石賀・4名	⑧/③/B-1
16	中央大学 経済学部	「長崎藩」 加瀬・4名	⑨/③/B-1
17	中央大学 経済学部	「大判焼き広報委員会」 金森・4名	—
18	津田塾大学 総合政策学部	「つだちゅーぶ」 並木・2名	⑩/①/A-2
19	津田塾大学 総合政策学部	「災害用ロボットチーム」 大連・5名	⑪/③/B-2
20	明治大学 商学部	「まちだんど四兄弟」 勝又・4名	⑫/④/B-2

テーマ	
エキゾチックアニマル 密輸の現状と課題	
チーズの貿易自由化と生産者保護	
サプライチェーン強靱化に向けた輸入統計のあり方 ～新たな貿易統計プラットフォームの構築にむけて～ 貿易における越境ECの分類 ～モノカサ・ビスか～	
日本の輸出多角化に関する研究 ～貿易データを用いた分析～	
港湾の効率性	
知的財産侵害物品対策の活動について ～YKKのB.P.P.活動を中心として～ 日本の弓道文化を世界へ ～日本製弓具の輸出入規制と品目分類について～	
日本の水素技術における海外市場開拓の可能性	
日本の地理的表示登録産品の輸出に向けて	



時間・お金・プログラミング知識のない文系学生が 「生成AIを利用したHS検索の可能性」を探ってみたら？ 観光客のお土産を輸出する仕組み ギガFITA-GATT第24条を踏まえて 日本が貿易を活性化させるために中小企業は何ができるか IPEF が掲げる「公正かつ強靱な貿易」 （第一の柱）は中国なしで達成できるのか 現代ロジスティクスによる物流業界の人手不足問題の解決 国境炭素関税と日本の未来 途上国における車輪の老朽化対策としての中古車の重要性 日本と東南アジアの連携による災害支援 ～災害用ロボットの輸出入円滑化と人的交流の強化～ 生物の輸出入に関する規制について	
--	--

発表手順

1. 直前のグループの質疑応答が終了した後、発表者席に登壇（移動中、スタッフが資料を投影）
2. 司会者の案内で発表を開始（タイムキーパーが計測開始）
3. 投影スライドをスタッフがスクリーンに投影
4. 発表者席に設置したPCを使って、発表者が投影スライドを操作
5. 発表開始から10分、11分、12分経過時にタイムキーパーが経過時間をプラカードで掲示
6. 発表終了後、審査員からの質問に回答（3分間）
7. 司会者の案内で降壇



発表方法

1. 会場が広いいため発言時はマイクを使用ください。
2. 壇上に上がって動きながら説明することも可能です。
3. チーム内で相談しながら事前に役割分担（発表者、スライド操作、その他）を決め、発表時間内（12分間）での「伝え方」を工夫しましょう。

発表中の留意事項

スマートフォンやタブレット等の電子機器はマナーモードか電源を切って、音が鳴らないようにしてください。

途中、トイレなどで入退室する際は、可能な限り、発表チームの入れ替えのタイミミングでお願いします。

他チームの妨害となる行為は行わないようお願いします。

自チームや他チームの発表中に、不測の事態が生じた場合は、遠慮なくお近くの事務局スタッフにお知らせください。

減多にない機会ですので、これまでの研究成果を思う存分発表し、何よりも楽しんでください！！③

午後（昼食後）の流れ



審査の対象

審査項目は「問題意識」、「調査力」、「分析力」、「発表力」、「将来性」となります。

発表時間が12分を超えた部分についても審査の対象となりますので、時間超過の場合でも発表を続けてください。なお、12分を超えた時間に応じて減点されますので注意してください。

質疑応答の内容についても審査の対象となります。

表彰内容（副賞）

最優秀賞



優秀賞



敢闘賞



※対象チームに表彰時に賞状とともにお渡しします。

当日の留意事項

服装の指定はございませんが、職場見学先の性質上、ハイヒール等かかとの尖った靴、スカート等はお控えください。視察先では2階で足場が網状になっている現場もございます。

体調不良になった場合は、遠慮なくお近くの事務局スタッフへ申し出てください。

職場見学やフォーラムの内容については、記録用として写真撮影、ビデオ撮影を行います。

写真やビデオを対外的に使用する場合、写っている方を対象に事前に使用の可否についてお尋ねします。

当日、マスコミによる取材がある可能性があります。

職場見学時の写真撮影はご遠慮願います。

後日、事務局スタッフが撮影した写真を御提供いたします。

フォーラム終了後に、フォーラムの様子について、各学校やゼミのHPでご紹介いただくのは大歓迎です！👏

【緊急連絡先】

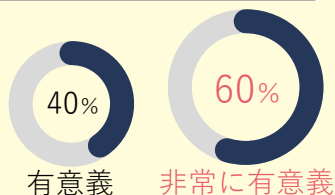
学生フォーラム事務局
財務省関税局税関調査室
・小西 (090-4248-6604)
・峯松 (090-5082-9178)



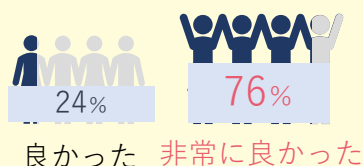
回答数
25名

アンケート結果 (集約版)

・学生フォーラムの評価



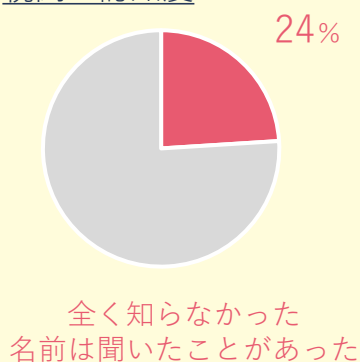
・参加して…



学生フォーラムの開催意義

- ・ 専攻を深めることができ、他学の意見も吸収できた。
- ・ 普段意識しない事を自ら問題意識を持って研究し、考えるきっかけを得られた。
- ・ 国際物流や貿易関連の職に興味を持った。
- ・ 研究を評価いただける場はありがたい。
- ・ 財務省、税関職員や大学教授の方々からのご意見伺えたことで、研究の展望が見出せた
- ・ 学生が税関や物流業界を知る良い機会で、就職先を選ぶきっかけにもなり得る。
- ・ 学生目線からの新鮮なアイデアが、国の法や活動へ影響を与える可能性がある。

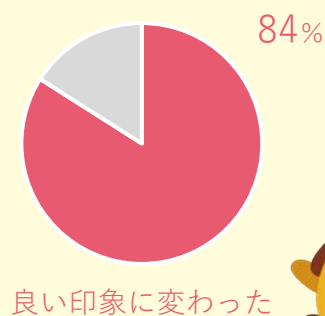
税関の認知度



学生フォーラム参加後



税関に対する印象の変化



学生フォーラムに参加して良かった点

- ・ 自らのキャリアプランに国家公務員もありかなと思うようになったのは大きかった。
- ・ 全く知らなかった税関の仕事や、海外を含めた物流を間近で見ることができた。
- ・ 実際に税関の若手職員と話ができる機会が非常に良かった。より近い感覚や目線で、就活のエピソードや実際に働いて感じたことなどを聞け、自分の進路を考えるヒントをもらった。
- ・ 若手職員の方々は気さくな方が多く、職場の雰囲気の良さが伝わってきた。

次回に向けて出された意見

- ・ 学生からの質問時間や討論時間もあれば面白い。
- ・ 研究発表についての質問は、もう少し時間があっても良いのではと思った。
- ・ 予選会の結果発表の期間から、本番までの期間が少し短いと感じた。
- ・ 実際の税関職員が働いている現場の視察があるとよい。
- ・ 開始の時間が早すぎて、遠方に住んでいる人が非常に大変だった。
- ・ 審査員からチームに向けて何かしらの形でフィードバックがあると嬉しい。

AM
午前

職場見学：東京外郵出張所、FedEx



PM
午後

主催者代表挨拶、審査員の紹介、 各グループによる研究発表会



PM
午後

若手職員との交流会



PM
午後

結果発表、表彰、講評、記念撮影

★最優秀賞



亜細亜大学 国際関係学部

「久野ゼミ」

＜テーマ＞
サプライチェーン強靱化に向けた輸
入統計のあり方
～新たな貿易統計プラットフォーム
の構築にむけて～



◎優秀賞



中央大学 経済学部

「とろけるチーズ班」

＜テーマ＞
チーズの貿易自由化と生産者保護

◎優秀賞



津田塾大学 総合政策学部

「ゆきのこ」

＜テーマ＞
日本の水素技術における海外市場開
拓の可能性



PM
午後

結果発表、表彰、講評、記念撮影

○特別賞

福知山公立大学 地域経営学部

「林として弓」

日本の弓道文化を世界へ
～日本製弓具の輸出入規制と品目分類について～



敢闘賞

富山高等専門学校 国際ビジネス学科

「らいちょう」

エキゾチックアニマル 密輸の現状
と課題



敢闘賞

高崎経済大学 経済学部

「梅島ゼミナール」

貿易における越境ECの分類
～モノかサービスか～



敢闘賞

東京国際大学 商学部

「Export Sphere Researchers
(ESR)」

日本の輸出多角化に関する研究
－貿易データを用いた分析－

PM
午後

結果発表、表彰、講評

敢闘賞

千葉大学 法政経学部

「伊藤ゼミ」

<テーマ>

港湾の効率性



敢闘賞

富山高等専門学校 国際ビジネス学科

「Latte」

<テーマ>

知的財産侵害物品対策の活動について
ーYKKのB.P.P.活動を中心としてー



敢闘賞

福島工業高等専門学校 ビジネスコミュニケーション学科

「タカギーズ」

<テーマ>

日本の地理的表示登録産品の輸出に向けて



講評



インタ ビュー



ファイナンス (2024年5月号)

国際物流と貿易の未来を考える
「学生フォーラム」

関税局関税課税関調査室



2024年3月11日、財務省関税局は、国際物流と貿易の未来を考える「学生フォーラム」を東京税関本庁において開催し、参加した学生が、国際物流と貿易分野に係るテーマを設定しグループ研究した内容を発表しました。

国際物流、貿易と密接に関係する関税・通関業務の向上を目的とした広報事業である本フォーラムは、2023年3月7日に税関発足150周年事業として初めて開催し、今回が2回目の開催となりました。

今回、フォーラムに参加したチーム・学生は、20チーム・78名であり、前回の16チーム・55名を超える多くの学生からの参加登録があったため、初めての試みとして予選会を開催し、本選で発表する10チームを選出しました。

フォーラム当日は、発表する10チームと予選会参加の8チームから67名の学生が参加しました。全体としては、学生に加え、審査員、学生の指導教授、フォーラムの共催団体・協力団体及び税関若手職員なども含め約130名が参加しました。

本選では、フォーラム当日の模様等について紹介します。

1 フォーラム当日の模様
(2024年3月11日)

(1) 開場式 (午前)

東京税関に集合した学生は、オリエンテーション終了後、グループ(バス4台)に分かれて、税関見学会場である東京税関東京外務出張所とフェデックス エクスプレス(通関業者・保税倉庫事業者)に向かいました。

東京外務出張所では、国際郵便物の税関検査の流れ、検査機器や発見された知的財産侵害物品などを見学しました。

フェデックス エクスプレスでは、海外から到着した航空貨物の税関への輸入申告業務や倉庫に搬入後、輸入許可された航空貨物がコンテナで自動仕分けされ、国内に配送されていく様子を見学しました。



国際郵便物や航空貨物の取り扱う現場の様子を見学した学生が、税関職員や事業者の職員に対して積極的な質問など、関心の高さが窺えました。

(2) 研究発表会 (午後)

研究発表会の冒頭、江島税関長が共催団体代表として挨拶し、「研究活動やフォーラムでの発表を通じて、税関業務や通関の実態について理解を深め、税関職員や共催団体・協力団体の職員と学生の皆さんとの交流を通じて、楽しく学ぶことを目的として企画した。発表後には交流会や懇親会も予定しており、学校の垣根を超えて参加者同士の交流を促していきたい。皆さんにとって有意義で思い出に残るフォーラムとなることを期待している。」と述べた。

続いて、審査員長の長谷川聡 中央大学名誉教授を軸とする審査員のカマに挨拶をいただき、メインイベントの研究発表会に移りました。研究発表は12分間。その後、審査員との質疑応答を3分間とし、各チームは予め用意したプレゼンテーション資料をスクリーンに投影し、工夫を凝らした発表を行いました。

発表のテーマは、サブライチエーション革新化、格差EC (国際貿易)、港湾、テーマの貿易自由化など分野は様々で、いずれも学生ならではの柔軟な着眼点を持ち、興味を引くテーマについて深く研究されており、非常にレベルの高い発表となりました。近年、税関分野でも注目されている時空を捉えたテーマや、強い企業など、学生フォーラム事務局としても学生の皆さんの調査能力や研究能力の高さに驚かされました。

また、審査員からの鋭い質問にも、研究結果を元に自分の思っていることを堂々と回答していました。



コラム

昨年の反省点、共催・協力団体のいただいた提案等を踏まえ、審査員6名の7つの課題を3点としました(第4回は1点)。審査員は、前回は5点で、中央大学 経済学部経済学系にお越しし、前回は青山学院大学 経済学部経済学系(公財)日本税関協会 理事、日本貿易振興機構 理事、東京大学 経済学部経済学系(公財)日本税関協会 理事、日本貿易振興機構 理事、東京大学 経済学部経済学系(公財)日本税関協会 理事に審査員をお願いしました。

また、共催団体から、(一財)日本通関協会 同僚正業会長、輸入・通関関係情報センター(株) 平田の代表取締役社長に審査員をお願いし、財務省関係者、奈良県税関長も審査員として参加しました。

(3) 若手職員との交流会

学生より年齢近い税関職員若手職員で構成された「かものプロジェクトメンバー」が、フォーラムの準備段階から関わり、フォーラム当日のロジのサポートや学生との交流にも参加しました。特に交流会の内容の企画立案を担当し、学生に有意義な時間を過ごしてもらったためにはぜひこのような内容とすれば良いと、検討しました。

当日は、「かものプロジェクトメンバー」及び輸入・通関関係情報センター(株)の若手職員が、事前に学生から聞き取った質問事項を活用して、座談会という形で学生との交流会を実施しました。学生の皆さんは、若手職員の職場での経験や、現在の職責を聞いた経験など興味深く聞いていました。

(※) 税関職員(関税の専門知識・税関業務を熟知)の若手職員が参加するため、税関の現場により詳しく事業を企画・運営することを目的として開催。



(4) 結果発表

審査の結果、最優秀賞に輝いたのは「サブライチエーション革新化に向けた輸入統計のあり方」をテーマに発表した京都大学国際関係学部チーム。続いて、優秀賞は「テーマの貿易自由化と生産者保護」をテーマに発表した中央大学経済学部チームと、「日

本の企業技術における海外市場開拓の可能性」をテーマに発表した津田塾大学総合政策学部チームとなりました。

特別賞として、「日本の円道文化を世界へ」をテーマに発表した福岡山立大学地域経済学部チーム、残りの優秀チームには表彰状が授けられました。

【特別】入賞チームの発表内容

○最優秀賞
・京都大学国際関係学部(チーム名「久野くも」)
パンパシフィックと地産の輸入の自由化が進展しているにもかかわらず、海外供給源の多岐化による、国内供給源の不足に起因する問題、サブライチエーションの強制化の必要性を指摘。現状の問題から、輸入統計の公開のリアルタイム化、物流実態の透明化の強化を行うことで、サブライチエーションの強制化が達成できると説明。

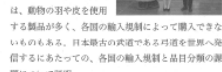
○優秀賞
・中央大学経済学部(チーム名「ふたつ」)
多くの国からテーマの輸入の自由化が進展しているにもかかわらず、EUからの輸入が増加している理由、輸入量が増加しているにもかかわらず、国内生産が減少していない理由について説明。

・津田塾大学総合政策学部(チーム名「ゆき」)
近年、税関と企業との関係とを両立するモデルとして注目されている企業と企業との関係について、現状・課題を分析し、課題を踏まえた提案を提示し、今後の実用化について説明。



○特別賞

・福岡山立大学地域経済学部(チーム名「林」)
円道文化の活用は、税関の役割や使用する製品が多く、各国の輸入規制によって輸入できないものもある。日本独自の円道文化を円道を世界へ発信するために、各国の輸入規制と品目分類の課題について説明。



コラム

優勝チームからは、所属大学の中で「研究発表会に参加するにあたり強い思いを抱いて、研究発表準備を進めてきた。その過程では、リサーチを進め、その成果を人前で発表することの楽しさと厳しさ、そしてチームで力を合わせる楽しさを感じた。研究発表を通じて、様々な形で研究発表の経験が得られ、今後の研究活動に活かしていきたい。」とのコメントをしていただきました。

2 フォーラム全校を通して

フォーラムの開催は、今回が2回目であり、伸びしろの多いイベントです。学生フォーラム事務局としても前回の開催状況を踏まえながら試行錯誤しつつ、より良いフォーラムとするために尽力してきました。第1回と比較して開催規模が大きくなっており、準備作業にたいへん困難な場面もありましたが、学生の皆さんからは、「非常に有意義なフォーラムで参加し、大変楽しかった。」「国際物流と貿易について考える良い機会になった。」「自分の進路を考えるヒントももらった。」などの声を聞くことができ、改めてフォーラムの意義の大きさを実感しました。

今後、フォーラムの知名度を上げていくために、継続して開催し、地道な広報活動や関係団体・教授の皆さまとの紹介などを通じた認知の向上を図ります。

今回のフォーラムは共催団体・協力団体、審査員、学生、教員の皆さんの協力なくしては成功できません。皆さまの協力によって実現できたフォーラムだと感じています。ご参加いただいた皆様には本誌をお送りし、深く感謝申し上げます。

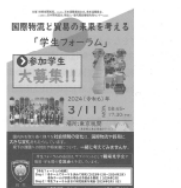


コラム

フォーラム開催の約半年前(2023年6月)に参加募集チラシを関係団体に配付し、X (旧 Twitter) も活用しつつ、また、事前に参加希望した学校の教員の皆さんや日本貿易振興機構(公財)日本通関協会からの協力などから参加募集を行いました。

フォーラムへの参加を希望する学生を対象としたオンライン説明会の開催、研究を進める中で学生の皆さんの興味は、期待外れに高まりました。また、事前の準備段階から、共催団体・協力団体からの参加を希望し、輸入・通関関係情報センター(株)、(公財)日本税関協会のパートナーとして初めての分野に積極的に関与している事業者を見学していただきました。

参加、審査の順の方にも本誌フォーラムを紹介いただけています。



各参加校

ホームページ記事

●亜細亜大学HP

国際関係学科久野新教授のゼミ生が学生フォーラム「国際物流と貿易の未来を考える」で最優秀賞を受賞



国際関係学科久野新教授のゼミ生3名が、3月11日に財務省等が主催する学生フォーラム「国際物流と貿易の未来を考える」で研究発表を行い、参加チームのなかで最高位の「最優秀賞」を受賞しました。

同発表会は「税関150周年」を記念して昨年から開始されたものであり、第2回となる今年は予選を通過した9校10チームが本選に達し、東京税関に設置された会場で国際物流や貿易に関する日頃の研究成果を発表しました。

久野ゼミからは3年生の高山崇洋実さん（リーダー）、齋藤七渡さん、田中友梨さんのチームが参加し、「サプライチェーン強靱化に向けた輸入統計のあり方」という経済安全保障に主眼をおいたテーマで研究報告を行いました。

●福島工業高等専門学校HP

お知らせ 2024.03.19

国際物流と貿易の未来を考える「学生フォーラム」で敢闘賞受賞



3月11日（月）、東京税関において「国際物流と貿易の未来を考える「学生フォーラム」」が開催され、本校ビジネスコミュニケーション学科3年の鈴木聖奈さんと丹野美晴さんが、「日本の地理的表示産品の輸出に向けて」という題目で発表を行い、敢闘賞を受賞しました。

この研究は、ビジネスコミュニケーション学科3年の鈴木亜久里さん、鈴木聖奈さん、田母神翔太さん、丹野美晴さん、馬場百花さん、渡辺さくらさんにより進められ、同学科5年の松本亜海さんが必要に応じて助言を行いまとめたものです。

本選には本校の他、富山高専、中央大学、亜細亜大学、高崎経済大学、千葉大学、福知山公立大学、津田塾大学が出場し、予選にはこのほかに大阪経済大学、高千穂大学、明治大学が参加しました。本校以外は全員大学生にあたる年齢での出場でしたが、そうしたなかでよく頑張り、本選に出場して敢闘賞を受賞することができました。



発表の様子



表彰式の様子

●東京国際大学HP

【商学部】財務省「学生フォーラム」参加

2024年03月14日

商学部の宋ゼミに所属する学生3名が、「国際物流と貿易の未来を考える学生フォーラム」に参加して研究報告を行い、敢闘賞を受賞しました。このフォーラムは、財務省等が主催し、税関の創立150周年を記念して昨年からスタートした官民学の連携イベントで、今年が第2回目の開催となります。今年は2024年3月11日（月）に東京税関にて開催され、午前中に東京外都出展所とFedExでの職場見学、午後には予選会を突破した各大学の10チームによる研究報告が行われました。商学部の学生3名は「日本の輸出多角化に関する研究：貿易データを用いた分析」という題目で報告し、日本の輸出構造を分析して政策提言を行いました。

今回のフォーラムに参加した学生たちは、「大勢の人の前で発表することは緊張したが、非常に有意義な経験だった。また、他大学の高水準な発表を聴くことで、大きな刺激を受けると同時に新しい視点を得ることができた」と述べています。指導教員である宋教授も学生たちの成長を高く評価しており、「大舞台での緊張感の中、審査委員からの鋭い質問にも冷静に対応できた。この経験が彼らの成長にとって大きな転機になる」と満ち足りています。



●福知山公立大学HP

地域経営学部3年生・松林亜優さんが「国際物流と貿易の未来を考える学生フォーラム」で特別賞を受賞しました

レポート | 2024.03.25

2024年3月11日（月）、「国際物流と貿易の未来を考える学生フォーラム」（主催：財務省他）が東京税関で開催され、地域経営学部3年生・松林亜優さんが研究発表を行い「特別賞」を受賞しました。

松林さんは、2023年11月頃に同フォーラムへのエントリーを行い、20チーム（78名）のエントリーがある中、書面による予選会を通過し、同フォーラムへの参加権を取得しました。



●津田塾大学HP

国際物流と貿易の未来を考える「学生フォーラム」で優秀賞受賞

2024.03.25

国際物流と貿易の未来を考える「学生フォーラム」にて総合政策学部のチームが優秀賞を受賞しました！



2024年3月11日、国際物流と貿易の未来を考える「学生フォーラム」が開催され、総合政策学部のチームが優秀賞を受賞しました。本フォーラムは、財務省等が主催し、税関の創立150周年を記念して昨年からスタートした官民学の連携イベントで、今年が第2回目の開催となります。今年は2024年3月11日（月）に東京税関にて開催され、午前中に東京外都出展所とFedExでの職場見学、午後には予選会を突破した各大学の10チームによる研究報告が行われました。総合政策学部の学生3名は「日本の輸出多角化に関する研究：貿易データを用いた分析」という題目で報告し、日本の輸出構造を分析して政策提言を行いました。

